

令和元年 8 月 27 日
消 防 庁

危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（案）等に対する意見公募の結果及び改正省令等の公布

消防庁は、危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（案）等の内容について、令和元年 7 月 2 日から令和元年 7 月 31 日までの間、国民の皆様から広く意見を公募したところ、1 件の御意見がございました。この結果を踏まえて、本日、「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令」等を公布しましたのでお知らせします。

1 主な改正内容

- (1) 屋外タンク貯蔵所に係る水張検査の代替
水張試験を適用しない補修溶接に係る規定を整備
- (2) 水素スタンドを併設する給油取扱所の技術基準の見直し
停車スペースの共有化及び液化水素昇圧型ポンプの設置に係る規定を整備
- (3) 地下貯蔵タンク等の定期点検期間の弾力化
定期的な漏れの点検について、実施期限の終期に係る規定を見直し
- (4) 危険物施設の泡消火設備に係る合成樹脂管の使用
泡消火設備の配管・継手に合成樹脂製のものを用いる場合の規定を整備

2 意見公募の結果

危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（案）等の内容について、令和元年 7 月 2 日から令和元年 7 月 31 日までの間、意見を公募したところ、1 件の御意見がございました。頂いた御意見及び総務省の考え方は、別紙 1 のとおりです。

3 省令等の公布

消防庁では、意見公募の結果を踏まえて検討し、「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令」等を令和元年 8 月 27 日に公布しました。

改正省令等の概要は別紙 2、改め文及び新旧対照表は別紙 3 のとおりです。



(事務連絡先)
消防庁危険物保安室 勝本課長補佐、辰川
TEL 03-5253-7524 (直通)
FAX 03-5253-7534

危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（案）等に対して提出された意見及び総務省の考え方

No.	提出された意見	総務省の考え方	提出意見を踏まえた案の修正の有無
1	水素ステーションに関連した適切な改正だと考えます。日本は水素エネルギー社会をリードする立場であるため、適切・迅速な規制の更新を望みます。過去の事故を鑑みて適切な規制を行いつつも、逆に必要以上に厳しい規制は速やかに改正し、我が国の水素産業の競争力を削がないよう願います。	賛成御意見として承ります。また、御意見も踏まえ、燃料電池自動車の利用環境整備に資するよう、安全性を確保しつつ、引き続き必要な対応を検討してまいります。	無

○提出意見数：1件

※ その他、案について全く言及しておらず、案と無関係と判断されるものが1件ありました。

危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令案等について（概要）

令和元年 8 月
危険物保安室

1 改正事項

（1）屋外タンク貯蔵所に係る水張検査の代替

水張試験を適用しない補修溶接に係る規定を整備

- 危険物の規制に関する規則（昭和 34 年総理府令第 55 号）
- 石油パイプライン事業の事業用施設の技術上の基準を定める省令（昭和 47 年通産省・運輸省・建設省・自治省令第 2 号）・同細目を定める告示（昭和 48 年 9 月 28 日通商産業省・運輸省・建設省・自治省告示第 1 号）

（2）水素スタンドを併設する給油取扱所の技術基準の見直し

停車スペースの共有化及び液化水素昇圧型ポンプの設置に係る規定を整備

- 危険物の規制に関する規則

（3）地下貯蔵タンク等の定期点検期間の弾力化

定期的な漏れの点検について、実施期限の終期に係る規定を見直し

- 危険物の規制に関する規則

（4）危険物施設の泡消火設備に係る合成樹脂管の使用

泡消火設備の配管・継手に合成樹脂製のものをを用いる場合の規定を整備

- 製造所等の泡消火設備の技術上の基準の細目を定める告示（平成 23 年総務省告示第 559 号）

2 施行日

公布の日（令和元年 8 月 27 日）

○総務省令第三十四号

消防法（昭和二十三年法律第百八十六号）及び危険物の規制に関する政令（昭和三十四年政令第三百六号）の規定に基づき、並びに同法及び同令を実施するため、危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令を次のように定める。

令和元年八月二十七日

総務大臣 石田 真敏

危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令

危険物の規制に関する規則（昭和三十四年総理府令第五十五号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正前欄及び改正後欄に対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動し、改正後欄に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを加える。

(漏れ試験)

第二十条の九 特定屋外貯蔵タンクの溶接部で次の各号に掲げるものは、真空試験、加圧漏れ試験、浸透液漏れ試験等の試験によつて漏れがないものでなければならぬ。

一 構造上の影響を与える有害な変形がないタンクの底部に係る溶接部(ぜい性破壊を起こすおそれのないものであつて、補修工事(タンク本体の変形に対する影響が軽微なものに限る。)に係るものに限る。)

二 [略]

三 屋根(浮き屋根のものにあつては、その総体とする。)及び浮き蓋の総体に係る溶接部

四 [略]

(屋外タンク貯蔵所の水張試験の特例)

第二十二條の四 令第十一條第六項の総務省令で定める屋外タンク貯蔵所の構造又は設備の変更の工事は、タンク本体に関する工事を含む変更の工事で、当該タンク本体に関する工事が次の各号(特定屋外タンク貯蔵所以外の屋外タンク貯蔵所にあつては、第一号、第二号、第三号、第五号、第六号、第八号及び第九号)に掲げるもの限り行われる変更の工事とする。

一 構造上の影響を与える有害な変形がないタンクの底部に係る溶接部(ぜい性破壊を起こすおそれのないものに限る。)

二 補修工事のうち、タンク本体の変形に対する影響が軽微なもの

三 [略]

四 圧縮天然ガス等充填設備設置屋外給油取扱所の業務を行うに必要設備は、第一号に掲げるものとし、当該設備は、第二号から第六号までに定めるところにより設けなければならない。

五 [一〜三 略]

六 圧縮天然ガススタンドの圧縮機、貯蔵設備、ディスプレイ及びガス配管の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、それぞれ次のとおりとすること。

イ 圧縮機

(1) [略]

(2) ガスの吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇するおそれのあるものにあつては、吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇した場合に圧縮機の運転を自動的に停止させる装置を設けること。

(漏れ試験)

第二十条の九 特定屋外貯蔵タンクの溶接部で次の各号に掲げるものは、真空試験、加圧漏れ試験、浸透液漏れ試験等の試験によつて漏れがないものでなければならぬ。

一 [新設]

二 [同上]

三 屋根(浮き屋根のものにあつては、その総体とする。)及び浮き蓋の総体に係る溶接部

四 [同上]

(屋外タンク貯蔵所の水張試験の特例)

第二十二條の四 令第十一條第六項の総務省令で定める屋外タンク貯蔵所の構造又は設備の変更の工事は、タンク本体に関する工事を含む変更の工事で、当該タンク本体に関する工事が次の各号(特定屋外タンク貯蔵所以外の屋外タンク貯蔵所にあつては、第一号、第二号、第三号、第五号、第六号及び第八号)に掲げるもの限り行われる変更の工事とする。

一 構造上の影響を与える有害な変形がないタンクの底部に係る溶接部(ぜい性破壊を起こすおそれのないものに限る。)

二 補修工事のうち、タンク本体の変形に対する影響が軽微なもの

三 [新設]

四 圧縮天然ガス等充填設備設置屋外給油取扱所の業務を行うに必要設備は、第一号に掲げるものとし、当該設備は、第二号から第六号までに定めるところにより設けなければならない。

五 [一〜三 略]

六 圧縮天然ガススタンドの圧縮機、貯蔵設備、ディスプレイ及びガス配管の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、それぞれ次のとおりとすること。

イ 圧縮機

(1) [同上]

(2) ガスの吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇するおそれのあるものにあつては、吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇した場合に圧縮機の運転を自動的に停止させる装置を設けること。

〔3〕・〔4〕 略

ロ 貯蔵設備

(2) 専用タンクの注入口及び第二十五条第二号に掲げるタンクの注入口から八メートル以上の距離を保つこと。ただし、地盤面下に設置される場合又はこれらの注入口の周囲で発生した火災の熱の影響を受けないための措置が講じられている場合にあっては、この限りでない。

ハ デイスペンサー

〔1〕 略

(2) 充填ホースは、自動車等のガスの充填口と正常に接続されていない場合にガスが供給されない構造とし、かつ、著しい引張力が加わった場合に当該充填ホースの破断によるガスの漏れを防止する措置が講じられたものであること。

〔3〕 略

〔二〕 略

五 液化石油ガススタンドの受入設備、圧縮機、貯蔵設備、充填用ポンプ機器、デイスペンサー及びガス配管の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、圧縮機、貯蔵設備、デイスペンサー及びガス配管にあってはそれぞれ前号イ(3)を除く。ロ、ハ又はニ(4)中ガス導管から圧縮機へのガスの供給に係る部分を除く。の規定の例によることとし、受入設備及び充填用ポンプ機器にあってはそれぞれ次のとおりとすること。

〔イ〕・ロ 同上

六 防火設備の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、そのポンプ機器にあっては、次のとおりとすること。

〔イ〕・ロ 略

〔7〕 略

8 第六項第四号ハ(1)及びニ(1)の規定にかかわらず、次に掲げる措置のすべてを講じた場合又は給油空地が軽油のみを取り扱う固定給油設備のうちホース機器の周囲に保有する空地である場合は、圧縮天然ガススタンドのデイスペンサー及びガス配管を給油空地(固定給油設備(懸垂式のものを除く。))のうちホース機器の周囲に保有する空地に限る。以下この項、第二十七条の五第七項並びに第二十八条の二の七第四項及び第五項において同じ。)に設置することができる。

一 固定給油設備(ホース機器の周囲に保有する給油空地に圧縮天然ガススタンドのデイスペンサー及びガス配管を設置するものに限る。以下この項並びに第二十八条の二の七第四項及び第五項において同じ。)の構造及び設備は、次によること。

イ 給油ホース(ガソリン、メタノール等又はエタノール等を取り扱うものに限る。以下この号及び第二十七条の五第七項第一号において同じ。)の先端部に手動開閉装置を備えた給油ノズルを設けること。

ロ 手動開閉装置を開放状態で固定する装置を備えた給油ノズル(ガソリン、メタノール等

〔3〕・〔4〕 同上

ロ 同上

(2) 専用タンクの注入口及び第二十五条第二号に掲げるタンクの注入口から八メートル以上の距離を保つこと。ただし、地盤面下に設置される場合又はこれらの注入口の周囲で発生した火災の熱の影響を受けないための措置が講じられている場合にあっては、この限りでない。

ハ 同上

〔1〕 同上

(2) 充填ホースは、自動車等のガスの充填口と正常に接続されていない場合にガスが供給されない構造とし、かつ、著しい引張力が加わった場合に当該充填ホースの破断によるガスの漏れを防止する措置が講じられたものであること。

〔3〕 同上

〔二〕 同上

五 液化石油ガススタンドの受入設備、圧縮機、貯蔵設備、充填用ポンプ機器、デイスペンサー及びガス配管の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、圧縮機、貯蔵設備、デイスペンサー及びガス配管にあってはそれぞれ前号イ(3)を除く。ロ、ハ又はニ(4)中ガス導管から圧縮機へのガスの供給に係る部分を除く。の規定の例によることとし、受入設備及び充填用ポンプ機器にあってはそれぞれ次のとおりとすること。

〔イ〕・ロ 同上

六 防火設備の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、そのポンプ機器にあっては、次のとおりとすること。

〔イ〕・ロ 同上

〔7〕 同上

8 第六項第四号ハ(1)及びニ(1)の規定にかかわらず、次に掲げる措置のすべてを講じた場合又は給油空地が軽油のみを取り扱う固定給油設備のうちホース機器の周囲に保有する空地である場合は、圧縮天然ガススタンドのデイスペンサー及びガス配管を給油空地(固定給油設備(懸垂式のものを除く。))のうちホース機器の周囲に保有する空地に限る。以下この項並びに第二十八条の二の七第四項及び第五項において同じ。)に設置することができる。

一 〔同上〕

イ 給油ホース(ガソリン、メタノール等又はエタノール等を取り扱うものに限る。以下この号において同じ。)の先端部に手動開閉装置を備えた給油ノズルを設けること。

ロ 手動開閉装置を開放状態で固定する装置を備えた給油ノズル(ガソリン、メタノール等

又はエタノール等を取り扱うものに限る。以下この号及び第二十七条の五第七項第一号において同じ。)を設ける固定給油設備は、次によること。

〔1〕(2) 略

ハ 給油ノズルは、自動車等の燃料タンクが満量となつたときに給油を自動的に停止する構造のものとする事。

〔二 略〕

ホ 固定給油設備には、当該固定給油設備(ホース機器と分離して設置されるポンプ機器を有する固定給油設備にあつては、ホース機器。以下この号及び第二十七条の五第七項第一号において同じ。)が転倒した場合において当該固定給油設備の配管及びこれに接続する配管からのガソリン、メタノール等又はエタノール等の漏えいの拡散を防止するための措置を講ずること。

〔一 略〕

三 火災その他の災害に際し速やかに操作することができる箇所に、給油取扱所内の全ての固定給油設備及び固定注油設備のホース機器への危険物の供給を一斉に停止するための装置を設けること。

(圧縮水素充填設備設置給油取扱所の基準の特例)

第二十七条の五 〔略〕

〔2〕4 略

5 圧縮水素充填設備設置給油取扱所の業務を行うについて必要な設備は、第一号に掲げるものとし、当該設備は、第二十七条の三第六項第二号、第三号及び第六号の規定の例によるほか、第二号及び第三号に定めるところにより設けなければならない。この場合において、同条第六項第三号中「圧縮天然ガス等」とあるのは「圧縮水素」と、同項第六号中「防火設備」とあるのは「第二十七条の五第五項第一号に規定する防火設備又は温度の上昇を防止するための装置」とする。

一 自動車等の洗浄を行う設備、自動車等の点検・整備を行う設備、混合燃料油調合器及び危険物から水素を製造するための改質装置並びに圧縮水素スタンド(一般高圧ガス保安規則第二条第一項第二十五号の圧縮水素スタンドをいう。以下この項から第七項までにおいて同じ。)及び防火設備(同規則第六条第一項第三十九号の防消火設備のうち防火設備をいう。次項において同じ。)又は温度の上昇を防止するための装置(同規則第七条の三第二項第十五号、第十九号及び第二十号の温度の上昇を防止するための装置をいう。次項において同じ。)

〔一 略〕

三 圧縮水素スタンドの改質装置(前号に掲げる改質装置を除く。以下この号において同じ。)、液化水素の貯槽、液化水素昇圧ポンプ、送ガス蒸発器、圧縮機、蓄圧器、ディスプレイ、液化水素配管及びガス配管並びに液化水素、圧縮水素及び液化石油ガスの受入設備の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、それぞれ次のとおりとする事。

又はエタノール等を取り扱うものに限る。以下この号において同じ。)を設ける固定給油設備は、次によること。

〔1〕(2) 同上

ハ 給油ノズルは、自動車等の燃料タンクが満量となつたときに給油を自動的に停止する構造のものとする事。

〔二 同上〕

ホ 固定給油設備には、当該固定給油設備(ホース機器と分離して設置されるポンプ機器を有する固定給油設備にあつては、ホース機器。以下この号において同じ。)が転倒した場合において当該固定給油設備の配管及びこれに接続する配管からのガソリン、メタノール等又はエタノール等の漏えいの拡散を防止するための措置を講ずること。

〔二 同上〕

三 火災その他の災害に際し速やかに操作することができる箇所に、給油取扱所内のすべての固定給油設備及び固定注油設備のホース機器への危険物の供給を一斉に停止するための装置を設けること。

(圧縮水素充填設備設置給油取扱所の基準の特例)

第二十七条の五 〔同上〕

〔2〕4 同上

5 圧縮水素充填設備設置給油取扱所の業務を行うについて必要な設備は、第一号に掲げるものとし、当該設備は、第二十七条の三第六項第二号、第三号及び第六号の規定の例によるほか、第二号及び第三号に定めるところにより設けなければならない。この場合において、同条第六項第三号中「圧縮天然ガス等」とあるのは「圧縮水素」と、同項第六号中「防火設備」とあるのは「第二十七条の五第五項第一号に規定する防火設備又は温度の上昇を防止する装置」とする。

一 自動車等の洗浄を行う設備、自動車等の点検・整備を行う設備、混合燃料油調合器及び危険物から水素を製造するための改質装置並びに圧縮水素スタンド(一般高圧ガス保安規則第二条第一項第二十五号の圧縮水素スタンドをいう。以下この項及び次項において同じ。)及び防火設備(同規則第六条第一項第三十九号の防消火設備のうち防火設備をいう。次項において同じ。)又は温度の上昇を防止する装置(同規則第七条の三第二項第十五号、第十九号及び第二十号の温度の上昇を防止する装置をいう。次項において同じ。)

〔二 同上〕

三 圧縮水素スタンドの改質装置(前号に掲げる改質装置を除く。以下この号において同じ。)、液化水素の貯槽、送ガス蒸発器、圧縮機、蓄圧器、ディスプレイ、液化水素配管及びガス配管並びに液化水素、圧縮水素及び液化石油ガスの受入設備の位置、構造又は設備の基準は、当該設備に係る法令の規定によるほか、それぞれ次のとおりとする事。

〔イ・ロ 略〕

ハ 液化水素昇圧ポンプには、自動車等の衝突を防止するための措置を講ずること。

〔略〕

ホ 圧縮機

(1) ガスの吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇するおそれのあるものにあつては、吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇した場合に圧縮機の運転を自動的に停止させる装置を設けること。

〔2〕(3) 略〕

〔略〕

ト デイスペンサー

〔1〕 略〕

(2) 充填ホースは、自動車等のガスの充填口と正常に接続されていない場合にガスが供給されない構造とし、かつ、著しい引張力が加わつた場合に当該充填ホースの破断によるガスの漏れを防止する措置が講じられたものであること。

〔3〕(4) 略〕

チ 略〕

リ 略〕

6 第三項から前項までに定めるもののほか、圧縮水素充填設備設置給油取扱所の特例は、次のとおりとする。

一 改質装置、液化水素の貯槽、液化水素昇圧ポンプ、送ガス蒸発器、圧縮機及び蓄圧器と給油空地等、簡易タンク及び専用タンク等の注入口との間に障壁を設けること。

二 防火設備又は温度の上昇を防止するための装置から放出された水が、給油空地等、令第十七条第一項第二十号に規定するポンプ室等及び専用タンク等の注入口付近に達することを防止するための措置を講ずること。

〔三〕六 略〕

7 第五項第三号ト(1)及びチ(1)の規定にかかわらず、次に掲げる措置の全てを講じた場合又は給油空地が軽油のみを取り扱う固定給油設備のうちホース機器の周囲に保有する空地である場合は、圧縮水素スタンドのデイスペンサー及びガス配管を給油空地に設置することができる。

一 固定給油設備（ホース機器の周囲に保有する給油空地に圧縮水素スタンドのデイスペンサー及びガス配管を設置するものに限る。以下この項において同じ。）の構造及び設備は、次によること。

イ 給油ホースの先端部に手動開閉装置を備えた給油ノズルを設けること。

ロ 手動開閉装置を開放状態で固定する装置を備えた給油ノズルを設ける固定給油設備は、次によること。

(1) 給油ノズルは、自動車等の燃料タンク給油口から脱落した場合に給油を自動的に停止する構造のものとする。

(2) 第二十五条の二第二号ハの規定にかかわらず、給油ホースは、著しい引張力が加わつたときに安全に分離するとともに、分離した部分からの危険物の漏えいを防止すること

〔イ・ロ 同上〕

〔新設〕

ハ 同上〕

ホ 同上〕

(1) ガスの吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇するおそれのあるものにあつては、吐出圧力が最大常用圧力を超えて上昇した場合に圧縮機の運転を自動的に停止させる装置を設けること。

〔2〕(3) 同上〕

〔同上〕

ト 同上〕

〔1〕 同上〕

(2) 充填ホースは、自動車等のガスの充填口と正常に接続されていない場合にガスが供給されない構造とし、かつ、著しい引張力が加わつた場合に当該充填ホースの破断によるガスの漏れを防止する措置が講じられたものであること。

〔3〕(4) 同上〕

チ 同上〕

リ 同上〕

〔同上〕

一 改質装置、液化水素の貯槽、送ガス蒸発器、圧縮機及び蓄圧器と給油空地等、簡易タンク及び専用タンク等の注入口との間に障壁を設けること。

二 防火設備又は温度の上昇を防止する装置から放出された水が、給油空地等、令第十七条第一項第二十号に規定するポンプ室等及び専用タンク等の注入口付近に達することを防止するための措置を講ずること。

〔三〕六 同上〕

〔新設〕

ができる構造のものとする。

ハ 給油ノズルは、自動車等の燃料タンクが満量となったときに給油を自動的に停止する構造のものとする。

ニ 一回の連続したガソリン、メタノール等又はエタノール等の給油量が一定の数量を超えた場合に給油を自動的に停止する構造のものとする。

ホ 固定給油設備には、当該固定給油設備が転倒した場合において当該固定給油設備の配管及びこれに接続する配管からのガソリン、メタノール等又はエタノール等の漏えいの拡散を防止するための措置を講ずること。

二 固定給油設備又は給油中の自動車等から漏れたガソリン、メタノール等又はエタノール等が、当該給油空地内の圧縮水素を充填するために自動車等が停車する場所、圧縮水素スタンドのディスプレイ及びガス配管が設置されている部分に達することを防止するための措置を講ずること。

三 火災その他の災害に際し速やかに操作することができ、給油取扱所内の全ての固定給油設備及び固定注油設備のホース機器への危険物の供給を一斉に停止するための装置を設けること。

第六十二条の五の二 令第八条の五第一号、第二号、第四号及び第五号に掲げる製造所等に係る定期点検は、第六十二条の四の規定によるほか、告示で定めるところにより、令第十三条第一項第一号に規定する地下貯蔵タンク（令第九条第一項第二十号ハにおいてその例による場合及びこれを令第十九条第一項において準用する場合並びに令第十七条第一項第八号イ及び同条第二項第二号においてその例による場合を含む。以下この条において「地下貯蔵タンク」という。）及び令第十三条第二項に規定する二重殻タンク（令第九条第一項第二十号ハにおいてその例による場合及びこれを令第十九条第一項において準用する場合並びに令第十七条第一項第八号イ及び同条第二項第二号においてその例による場合を含む。以下この条において「二重殻タンク」という。）の強化プラスチック製の外殻の漏れの点検を行わなければならない。ただし、次の各号に掲げる地下貯蔵タンク若しくはその部分又は二重殻タンクの強化プラスチック製の外殻にあつては、この限りでない。

【一・二 略】

2 前項の点検は、地下貯蔵タンク又は二重殻タンクの強化プラスチック製の外殻（以下この項において「地下貯蔵タンク等」という。）を有する製造所等について令第八条第三項の完成検査済証（法第十一条第一項後段の規定による変更の許可（以下この条から第六十二条の五の四までにおいて「変更の許可」という。）に係るものについては、当該地下貯蔵タンク等の変更の許可に係るものに限る。）の交付を受けた日又は直近において当該地下貯蔵タンク等について前項の点検を行った日から、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める期間を超えない日までの間に一回以上行わなければならない。ただし、当該期間内に当該地下貯蔵タンク又は二重殻タンクにおける危険物の貯蔵及び取扱いが休止され、かつ、市町村長等が保安上支障がないと認める場合には、当該地下貯蔵タンク又は二重殻タンクを有する製造所等の所有者、管理者又は占有者の申請に基づき、当該期間を当該市町村長等が定める期間

第六十二条の五の二 令第八条の五第一号、第二号、第四号及び第五号に掲げる製造所等に係る定期点検は、第六十二条の四の規定によるほか、告示で定めるところにより、令第十三条第一項第一号に規定する地下貯蔵タンク（令第九条第一項第二十号ハにおいてその例による場合及びこれを令第十九条第一項において準用する場合並びに令第十七条第一項第八号イ及び同条第二項第二号においてその例による場合を含む。以下この条において「地下貯蔵タンク」という。）及び令第十三条第二項に規定する二重殻タンク（令第九条第一項第二十号ハにおいてその例による場合及びこれを令第十九条第一項において準用する場合並びに令第十七条第一項第八号イ及び同条第二項第二号においてその例による場合を含む。以下この条において「二重殻タンク」という。）の強化プラスチック製の外殻の漏れの点検を行わなければならない。ただし、次の各号に掲げる地下貯蔵タンク若しくはその部分又は二重殻タンクの強化プラスチック製の外殻にあつては、この限りでない。

【一・二 同上】

2 前項の点検は、地下貯蔵タンク又は二重殻タンクの強化プラスチック製の外殻（以下この項において「地下貯蔵タンク等」という。）を有する製造所等について令第八条第三項の完成検査済証（法第十一条第一項後段の規定による変更の許可（以下この条から第六十二条の五の四までにおいて「変更の許可」という。）に係るものについては、当該地下貯蔵タンク等の変更の許可に係るものに限る。）の交付を受けた日又は直近において当該地下貯蔵タンク等について前項の点検を行った日から、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める期間を超えない日までの間に一回以上行わなければならない。ただし、当該期間内に当該地下貯蔵タンク又は二重殻タンクにおける危険物の貯蔵及び取扱いが休止され、かつ、市町村長等が保安上支障がないと認める場合には、当該地下貯蔵タンク又は二重殻タンクを有する製造所等の所有者、管理者又は占有者の申請に基づき、当該期間を当該市町村長等が定める期間延長することがで

<p>備考 表中の「」の記載及び対象規定の二重傍線を付した標記部分を除く全体に付した傍線は注記である。</p>	<p>延長することができる。</p> <p>一 地下貯蔵タンク 一年（完成検査を受けた日から十五年を超えないもの又は危険物の漏れを覚知しその漏えい拡散を防止するための告示で定める措置が講じられているものにあつては三年）</p> <p>〔一略〕</p> <p>〔3 略〕</p> <p>第六十二条の五の三 製造所等のうち地盤面下に設置された配管（以下この条において「地下埋設配管」という。）を有するものに係る定期点検は、第六十二条の四の規定によるほか、告示で定めるところにより、当該地下埋設配管の漏れの点検を行わなければならない。ただし、地下埋設配管又はその部分のうち、危険物の微少な漏れを検知しその漏えい拡散を防止するための告示で定める措置が講じられているものにあつては、この限りではない。</p> <p>2 前項の点検は、地下埋設配管を有する製造所等について令第八条第三項の完成検査済証（変更の許可に係るものについては、当該地下埋設配管の変更の許可に係るものに限る。）の交付を受けた日又は直近において前項の点検を行った日から一年（完成検査を受けた日から十五年を超えないもの又は危険物の漏れを覚知しその漏えい拡散を防止するための告示で定める措置が講じられているものにあつては三年）を経過する日の属する月の末日までの間に一回以上行わなければならない。ただし、当該期間内に当該地下埋設配管における危険物の取扱いが休止され、かつ、市町村長等が保安上支障がないと認める場合には、当該地下埋設配管を有する製造所等の所有者、管理者又は占有者の申請に基づき、当該期間を当該市町村長等が定める期間延長することができる。</p> <p>〔3 略〕</p> <p>第六十二条の五の四 移動タンク貯蔵所に係る定期点検は、第六十二条の四の規定によるほか、告示で定めるところにより、令第八条第三項の完成検査済証（変更の許可に係るものについては、当該移動貯蔵タンクの変更の許可に係るものに限る。）の交付を受けた日又は直近において当該移動貯蔵タンクの漏れの点検を行った日から五年を経過する日の属する月の末日までの間に一回以上当該移動貯蔵タンクの漏れの点検を行わなければならない。</p>
	<p>きる。</p> <p>一 地下貯蔵タンク 一年（完成検査を受けた日から十五年を超えないもの又は危険物の漏れを覚知しその漏えい拡散を防止するための告示で定める措置が講じられているものにあつては三年）</p> <p>〔二 同上〕</p> <p>〔3 同上〕</p> <p>第六十二条の五の三 製造所等のうち地盤面下に設置された配管（以下この条において「地下埋設配管」という。）を有するものに係る定期点検は、第六十二条の四の規定によるほか、告示で定めるところにより、当該地下埋設配管の漏れの点検を行わなければならない。ただし、地下埋設配管又はその部分のうち、危険物の微少な漏れを検知しその漏えい拡散を防止するための告示で定める措置が講じられているものにあつては、この限りではない。</p> <p>2 前項の点検は、地下埋設配管を有する製造所等について令第八条第三項の完成検査済証（変更の許可に係るものについては、当該地下埋設配管の変更の許可に係るものに限る。）の交付を受けた日又は直近において前項の点検を行った日から一年（完成検査を受けた日から十五年を超えないもの又は危険物の漏れを覚知しその漏えい拡散を防止するための告示で定める措置が講じられているものにあつては三年）を超えない日までの間に一回以上行わなければならない。ただし、当該期間内に当該地下埋設配管における危険物の取扱いが休止され、かつ、市町村長等が保安上支障がないと認める場合には、当該地下埋設配管を有する製造所等の所有者、管理者又は占有者の申請に基づき、当該期間を当該市町村長等が定める期間延長することができる。</p> <p>〔3 同上〕</p> <p>第六十二条の五の四 移動タンク貯蔵所に係る定期点検は、第六十二条の四の規定によるほか、告示で定めるところにより、令第八条第三項の完成検査済証（変更の許可に係るものについては、当該移動貯蔵タンクの変更の許可に係るものに限る。）の交付を受けた日又は直近において当該移動貯蔵タンクの漏れの点検を行った日から五年を超えない日までの間に一回以上当該移動貯蔵タンクの漏れの点検を行わなければならない。</p>

附 則

この省令は、公布の日から施行する。

○総務省
経済産業省令第二号
国土交通省

石油パイプライン事業法（昭和四十七年法律第百五号）第十五条第三項第二号の規定に基づき、石油パイプライン事業の事業用施設の技術上の基準を定める省令の一部を改正する省令を次のように定める。

令和元年八月二十七日

総務大臣 石田 真敏
経済産業大臣 世耕 弘成
国土交通大臣 石井 啓一

石油パイプライン事業の事業用施設の技術上の基準を定める省令の一部を改正する省令

石油パイプライン事業の事業用施設の技術上の基準を定める省令（昭和四十七年 通商産業省、運輸省、建設省、自治省、令第二号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正後欄に掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、これを加える。

改正後	改正前
<p>(タンク) 第五十五条 [略] 〔2・3 略〕</p> <p>4 屋外タンクに関する工事が次の各号（特定屋外タンク以外の屋外タンクにあつては、第一号から第三号まで、第五号、第六号、第八号及び第九号）に掲げるものに限り行われた場合には、第一号及び第二号（前項においてその例による場合を含む。）の規定（水張試験に関する基準に係る部分に限る。）は適用しない。</p> <p>〔二〇八 略〕</p> <p>九 構造上の影響を与える有害な変形がないタンクの底部に係る溶接部（ぜい性破壊を起こすおそれのないものに限る。）の補修工事のうち、タンク本体の変形に対する影響が軽微なもの</p> <p>〔五〇七 略〕</p>	<p>(タンク) 第五十五条 [同上] 〔2・3 同上〕</p> <p>4 屋外タンクに関する工事が次の各号（特定屋外タンク以外の屋外タンクにあつては、第一号から第三号まで、第五号、第六号及び第八号）に掲げるものに限り行われた場合には、第一号及び第二号（前項においてその例による場合を含む。）の規定（水張試験に関する基準に係る部分に限る。）は適用しない。</p> <p>〔二〇八 同上〕</p> <p>〔新設〕</p> <p>〔五〇七 同上〕</p>
<p>備考 表中の「」の記載及び対象規定の二重傍線を付した標記部分を除く全体に付した傍線は注記である。</p>	

附 則

この省令は、公布の日から施行する。

○総務省経済産業省告示第二号
国土交通省

石油パイプライン事業の事業用施設の技術上の基準を定める省令（昭和四十七年

通商産業省、運輸
建設省、自治

省、
省、
令第二号）の規定に基づき、石油パイプライン事業の事業用施設の技術上の基準の細目を定める

告示（昭和四十八年

通商産業省、運輸省、
建設省、自治省

告示第一号）の一部を次のように改正し、告示の日から施

行する。

令和元年八月二十七日

総務大臣 石田 真敏

経済産業大臣 世耕 弘成

国土交通大臣 石井 啓一

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正後欄に掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、これを加える。

改正後	改正前
<p>(溶接部の試験等) 第六十八条の十二 [略] [2・3 略]</p> <p>4 特定屋外タンクの溶接部で次の各号に掲げるものは、真空試験、加圧漏れ試験、浸透液漏れ試験等の試験によつて漏れがないものでなければならぬ。</p> <p>一 構造上の影響を与える有害な変形がないタンクの底部に係る溶接部(ぜい性破壊を起こすおそれのないものであつて、補修工事(タンク本体の変形に対する影響が軽微なものに限る。)に係るものに限る。)</p> <p>二 接液部以外の側板に係る溶接部(取替え工事に係るものを除く。)</p> <p>三 屋根(浮き屋根のものにあつては、その総体とする。)及び浮き蓋の総体に係る溶接部</p> <p>四 ノズル、マンホール等に係る溶接部</p>	<p>(溶接部の試験等) 第六十八条の十二 [同上] [2・3 同上]</p> <p>4 特定屋外タンクの屋根(浮き屋根のものにあつては、その総体とする。)、浮き蓋の総体、ノズル、マンホール等に係る溶接部は、真空試験、加圧漏れ試験、浸透液漏れ試験等の試験によつて漏れがないものでなければならぬ。</p> <p>[新設]</p> <p>[新設]</p> <p>[新設]</p> <p>[新設]</p>
<p>備考 表中の「」の記載及び対象規定の二重傍線を付した標記部分を除く全体に付した傍線は注記である。</p>	

○総務省告示第百五十号

危険物の規制に関する規則（昭和三十四年総理府令第五十五号）第三十八条の三の規定に基づき、製造所等の泡消火設備の技術上の基準の細目を定める告示（平成二十三年総務省告示第五百五十九号）の一部を次のように改正し、告示の日から施行する。

令和元年八月二十七日

総務大臣 石田 真敏

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正前欄及び改正後欄に対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動し、改正後欄に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを加える。

改正後	改正前
<p>(バッケージ型固定泡消火設備の基準)</p> <p>第十八条 バッケージ型固定泡消火設備(危険物規制令第十七条第五項に規定する顧客に自ら給油等をさせる給油取扱所において設置し、人が起動装置を操作することにより、自動的に泡水溶液を圧力により泡放出口から放出して消火を行う固定した消火設備であつて、泡放出口、泡消火薬剤等貯蔵容器(泡消火薬剤及び泡消火薬剤と混合するための水、又は泡水溶液を貯蔵する容器をいう。以下同じ。)、起動装置等により構成されるものをいう。以下同じ。)は、次の各号に定めるところにより設けなければならない。</p> <p>〔一 略〕</p> <p>二 放出量は、一の自動車等の停止位置ごとに、水平放出方式にあつては七・四リットル毎分以上、下方放出方式にあつては二十二・二リットル毎分以上とすること。</p> <p>〔2〕5 略</p> <p>(泡消火設備の設置及び維持に関する技術上の基準の細目)</p> <p>第十九条 泡消火設備(バッケージ型固定泡消火設備を除く。以下この条において同じ。)の設置及び維持に関する技術上の基準の細目は、施行規則第十八条第四項第六号から第九号まで、同項第十号(イのただし書を除く。)及び同項第十六号の規定の例によるほか、次のとおりとする。</p> <p>〔一・二 略〕</p> <p>三 配管は、次に定めるところによること。</p> <p>イ 合成樹脂製の管にあつては、施行規則第十二条第一項第六号ニ(ロ)に定める基準に適合するものであることとし、合成樹脂製の管を接続する管継手にあつては、同号ホ(ロ)に規定する消防庁長官が定める基準に適合するものであることとする。</p> <p>ロ 合成樹脂製の管及び管継手は、火災の熱等の影響を受けないように設置されていること。</p> <p>四 略</p> <p>五 略</p>	<p>(バッケージ型固定泡消火設備の基準)</p> <p>第十八条 〔同上〕</p> <p>〔一 同上〕</p> <p>二 放出量は、一の泡放出口ごとに、水平放出方式にあつては七・四リットル毎分以上、下方放出方式にあつては二十二・二リットル毎分以上とすること。</p> <p>〔2〕5 同上</p> <p>(泡消火設備の設置及び維持に関する技術上の基準の細目)</p> <p>第十九条 泡消火設備(バッケージ型固定泡消火設備を除く。以下この条において同じ。)の設置及び維持に関する技術上の基準の細目は、施行規則第十八条第四項第六号及び第七号、同項第八号(同号において準ずることとされる施行規則第十二条第一項第六号のうちニ(ロ)及びホ(ロ)を除く。)、施行規則第十八条第四項第九号、同項第十号(イのただし書を除く。)並びに同項第十六号の規定の例によるほか、次のとおりとする。</p> <p>〔一・二 同上〕</p> <p>〔新設〕</p> <p>三 〔同上〕</p> <p>四 〔同上〕</p>
<p>備考 表中の「」の記載及び対象規定の二重傍線を付した標記部分を除く全体に付した傍線は注記である。</p>	